

# 参加と参画のち・が・いを知っていますか？

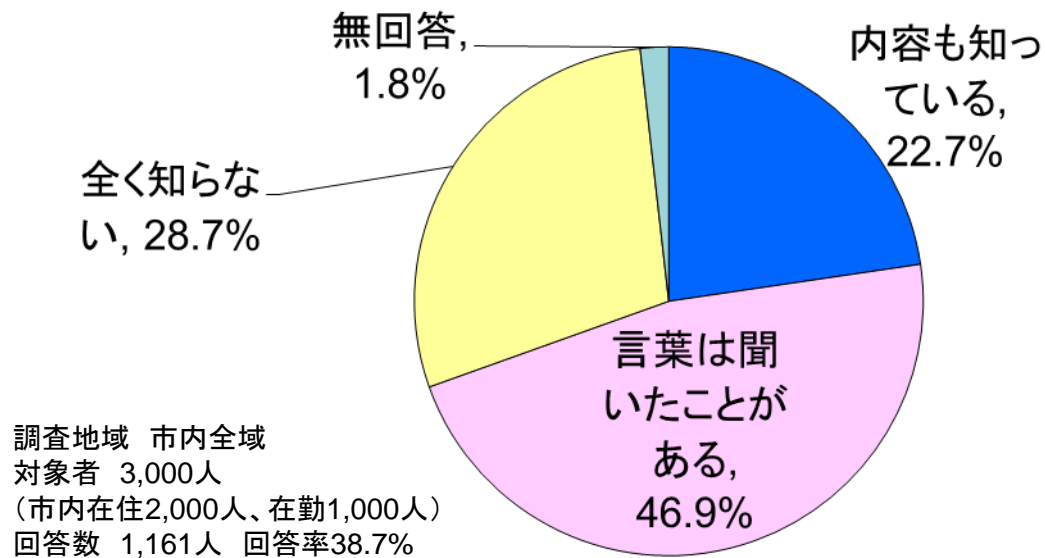
「男女共同参画社会」という言葉が、日本で使われ始めたのは、今から18年前の1999年(平成11年)からです。

その後、男女共同参画社会の実現に向けて、国や市では様々な施策や啓発活動を行い、次第に市民一人一人の意識も向上してきました。例えば、「イクメン」は流行語にもなり、「ワーク・ライフ・バランス」は馴染みのある言葉として良く耳にするようになりました。

では、「男女共同参画社会」という言葉はどうでしょう？

平成28年度に実施した「厚木市男女共同参画市民意識調査」の結果では、“内容も知っている”は22.7%で、認知度は1/4以下と高い数字とは言えません。

## 男女共同参画社会の認知度



※厚木市男女共同参画市民意識調査結果(平成28年度)より

この結果から考えた時に、「参画」という言葉の意味が難しいということも要因の1つではないかと考えました。

「参加じゃないの？」や「参加とどんな違いがあるの？」などの疑問が、認知度の低さに表れているのではないのでしょうか。

今号では、「参加」と「参画」の違いを、男女共同参画社会の形成に重要な4つの分野に分けて紹介し、「参画」という言葉の意味を理解してもらうために特集してみました。

普段、言葉の意味を知らなくても、何気なく「参画」を実践したり無意識のうちに行っていたことが、きっとあるはずですよ。

## ★職場での参画★



- 政策や方針を決める立場に就く
- 新入社員やパート、アルバイトの教育係
- プロジェクトチームのリーダーとなって仕事や事業を行う

## ★地域での参画★



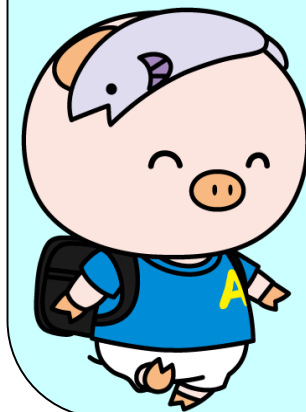
- 自治会やPTAなどの市民協働の場での役員となって活躍
- 地域のお祭りや防犯パトロールのリーダーとして活躍
- NPOやボランティア団体を作って、地域で事業を行う



# 参画ってこんなこと



## ★学校での参画★



- 学級委員などクラスのまとめ役になる
- 児童会や委員会に所属して意見を言う
- 学級会で意見を言ったり、日直も参画の一つ

## ★家庭での参画★



- 仕事から帰ったら夕食の支度をする
- 子どもが熱を出したので、仕事を休んで看病
- 親の介護も夫婦で協力
- 休みの日に家族で過ごす

4つの分野で「参画」について考えていただくと分かるように、参画とは与えられたことをするだけでなく、自らも一員として積極的に意見を言ったり、リーダーとなって能力を発揮することです。しかし、参画はいきなり出来るものではありません。まずは「参加」をすることです。参加をすることで、多くの人とのコミュニケーションが図られます。それが人と人との繋がりとなり、そこに信頼関係や絆が生まれ、「参画」にたどり着くのではないのでしょうか。それは、4つの分野において共通することです。「男女共同参画」とは、性別にとらわれずお互いを尊重し個人の能力を発揮することです。

